

世界農業遺産

GIAHS

GLOBALLY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS

第30回 日本ナイル・エチオピア学会学術大会 公開シンポジウム アフリカと日本を世界農業遺産でむすぶ 人新世におけるアグロエコロジーの保全にむけた対話

2021. 4/17 土 14:00~

会場: ZOOMによる遠隔形式

ZOOM 参加登録URL ※ 前日までに申込が必要です。
<https://forms.gle/6Bd9hYbu2MTPoTLZ7>

参加費: 無料 使用言語: 日本語

一般参加歓迎(日本ナイル・エチオピア学会員以外も参加可能です)

参加登録フォーム



このシンポジウムでは、世界農業遺産(GIAHS)の登録・保全・利用に関わる可能性のある市民社会とアカデミアが一堂に会します。そして、ナイル・エチオピア地域の在来農業に関する知見の蓄積と、世界第2位の世界農業遺産登録地数を有する日本が、この地域のアグロエコロジーを保全するためにとりうる新たなアプローチについて考えます。そのために、FAO、Slow Food、地域研究者、農家そしてシンポジウムに参加するさまざまな方と共に、世界農業遺産を介して日本とナイル・エチオピア地域をむすぶ可能性についての自由な対話をおこないます。

プログラム

- 14:00~14:15 趣旨説明
内藤 直樹(徳島大学・准教授)
「アフリカ在来農業研究と日本の世界農業遺産をひらく」
- 14:15~14:45 基調講演
遠藤 芳英(FAO GIAHS Coordinator)
「FAO世界農業遺産事業の概要と東アフリカとの関連」
- 14:50~15:35 パネルディスカッション
渡邊 めぐみ(Slow Food Nippon・代表理事)
「消費を通じた食文化の保全: 味の箱船とプレシディオについて」
藤本 武(富山大学・教授)
「アフリカにおける農業遺産の可能性: エチオピア西南部のエンセーテ栽培」
内藤 直樹(徳島大学・准教授)
「地域の農業遺産をむすぶ: 日本における世界農業遺産の特徴と課題」
- 15:35~15:45 休憩
- 15:45~16:45 総合討論
コメンテーター: 林 浩昭(国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会・会長)

お問い合わせ

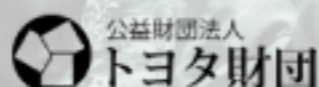
第30回日本ナイル・エチオピア学会学術大会事務局 E-mail : 30th.janes@gmail.com

【主催】 日本・ナイルエチオピア学会

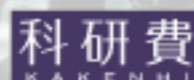
【共催】 科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)(2020728)「ゾミアの空間の地球史にむけたプレリサーチ: 非人間中心主義的転回への人類学的応答」研究代表者: 内藤直樹, 科学研究費補助金 基盤研究A(16H01968)「応答の人類学: フィールド、ホーム、エデュケーションにおける学理と技法の探求」研究代表者: 清水展, 公益財団法人トヨタ財団 2020年度国内助成プログラム「しらべる助成」『雑穀と若者のつながりで豊かになる地域社会をつくる』プロジェクト代表者: 内藤直樹



Slow Food Nippon



公益財団法人
トヨタ財団



科研費
KAKENHI



徳島大学
TOKUSHIMA UNIVERSITY

第30回 日本ナイル・エチオピア学会学術大会 公開シンポジウム アフリカと日本を世界農業遺産でむすぶ 人新世におけるアグロエコロジーの保全にむけた対話

このシンポジウムでは、世界農業遺産(GIAHS)の登録・保全・利用に関わる可能性がある市民社会とアカデミアが一堂に会します。そして、ナイル・エチオピア地域の在来農業に関する知見の蓄積と、世界第2位の世界農業遺産登録地数を有する日本が、この地域のアグロエコロジーを保全するためにとりうる新たなアプローチについて考えます。

2002年に開始したGIAHSとは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた農業上の土地利用、伝統的な農業とそれに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農業システムを国連食糧農業機関(FAO)が認定する仕組みです。GIAHSは世界遺産制度や野生生物保全制度とは異なる複合的な概念で、生きた、変化するシステムを重視しています。それゆえ、伝統農業をそのまま保全するのではなく、農業に関する知識の刷新を重視したダイナミックな保全戦略がとられています。

こうした世界農業遺産の理念や実践は、ナイル・エチオピア地域を対象にした在来農業研究の知見とも親和性が高い部分があります。この地域では、数え切れないほどのユニークな在来農業が、環境や社会経済的な変化のなかでダイナミックに展開してきました。しかしながら、これまでのところナイル・エチオピア地域を対象にした在来農業研究と世界農業遺産の推進との間に強いつながりはありません。また、食を通じたまちづくりを原点到、市民が主体となって文化的多様性と生物多様性の保全をおこなうスローフード運動と世界農業遺産の親和性も高いのですが、日本においては両者の協働は進んでいませんでした。

こうした問題意識を背景に、今回はFAO、Slow Food、地域研究者、農家そしてシンポジウムに参加するさまざまな方と共に、GIAHSを介して日本とナイル・エチオピア地域をむすぶ可能性についての自由な対話をおこないます。



遠藤 芳英 (国際連合食糧農業機関 気候変動・生物多様性・環境問題対策室・世界農業遺産 コーディネーター)

2002年に開始した世界農業遺産イニシアティブの運営に関する中心的役割を担ってきた。また、世界第2位の登録地数をもつ日本の世界農業遺産サイトの保全に関する諸アクターとの連携を強化してきた。



渡邊 めぐみ (Slow Food Nippon・代表理事)

学生時代にSlow Food Youth Network, Tokyoを立ちあげ、2015年にスローフード協会が設立した食科学大学で修士号を取得。Slow Food Nipponの立ちあげから運営の中心的役割を担ってきた。



林 浩昭 (国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会・会長)

農学博士。2003年に東京大学大学院農学生命科学研究科を辞し、故郷である国東半島で農林業をはじめ。2013年に認定された世界農業遺産「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産業循環(大分)」の動的保全活動での中心的役割を担っている。



藤本 武 (富山大学 学術研究部人文科学系・教授)

博士(人間・環境学)。エチオピアの農耕社会を対象にした長期のフィールドワークに基づく、在来農業や食文化の動態に関する人類学的研究をおこなってきた。また近年はエチオピアだけでなく世界の多様な発酵食品についても関心をもって調べている。



内藤 直樹 (徳島大学大学院社会産業理工学研究部・准教授)

博士(地域研究)。東アフリカの牧畜社会や難民キャンプを対象にした人類学的研究。2018年に世界農業遺産に認定された「にし阿波の傾斜地農耕システム(徳島)」の申請に関わった。

関連資料

内藤直樹 2021「ジニレイガクのトリセツ:世界農業遺産が生まれる現場から」清水展・小國和子(編)『職場・学校で活かす現場グラフィー:ダイバーシティ時代の可能性をひらくために』明石書店。

<https://www.akashi.co.jp/book/b557451.html>

Aurelie Fernandez, et.al. 2020 *Globally Important Agricultural Heritage Systems, Geographical Indications and Slow Food Presidia: Technical note*. FAO.

<http://www.fao.org/3/cb1854en/cb1854en.pdf>

Webinar *Globally Important Agricultural Heritage Systems: an opportunity to restore ecosystems and achieve the SDGs*. FAO.

<http://www.fao.org/giahs/event-giahs-ecosystem-restoration>



『職場・学校で活かす現場グラフィー』明石書店



世界農業遺産

GIAHS

GLOBALLY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS



[お問い合わせ]

第30回
日本ナイル・エチオピア学会
学術大会事務局

[E-mail]
30th.janes@gmail.com